

# りそな外為レポート

## りそな WEEKLY COLUMN

### りそな外為レポート

#### ウサギを追うな (P2)

チーフカスタマーディーラー  
 井口 慶一

今週のドル円予想レンジ **106.80 ~ 108.80**

### りそなWEEKLY COLUMN

#### さようなら1円玉? (P3)

りそなホールディングス 市場企画部  
 吉原 佑香里

- なかなか普及が進まない日本でのキャッシュレス決済
- 経済産業省の掲げる「キャッシュレス・ビジョン」では2025年までにキャッシュレス決済比率を40%に引き上げる目標
- お財布から1円玉がなくなる日も近いかな?

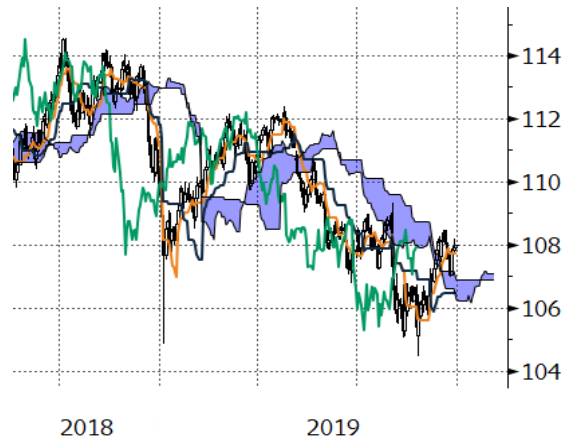
# りそな外為レポート

## ウサギを追うな

今週のドル円予想レンジ **106.80 ~ 108.80**

(りそな銀行市場トレーディング室予想 発行当日の10時時点)

### ◆ドル円一目均衡表 (日足)



### ◆為替相場のすすめ

「ウクライナゲート」疑惑による弾劾査問開始、国連総会での中国批判(通商協議再開にもかかわらず!)等、先週もトランプ大統領に翻弄される展開だった。ただし、ドル円の値幅は縮小傾向でトレンドが形成されにくくなってきている。FRBメンバーの意見が割れていて米金融政策が見極めにくいこと、トランプ大統領が貿易問題で首尾一貫しない発言を繰り返していることなどがマーケットの動きを鈍らせているようだ。市場参加者も新たな材料が顕在化しても「ウサギを追うな」と深追いしない。今は独りよがりのプランで突っ込むと簡単にターンオーバーされ、大きなリスクに晒されてしまう。

今週はISM製造業指数や雇用統計などの米重要経済指標の注目度が高いが、一か八かのナイストライを狙わずにコツコツとゴールキックでポイントを重ねていきたい。「拙攻は巧遅に勝る」と言う。ヘッジで奇跡を望んではいけない。今は「ウサギを追わず」適度な水準で適宜ヘッジをいれていくことが肝要だろう。為替差損、これは経費で落ちません。(チーフカスタマーディーラー 井口慶一)

### ◆今週の日程

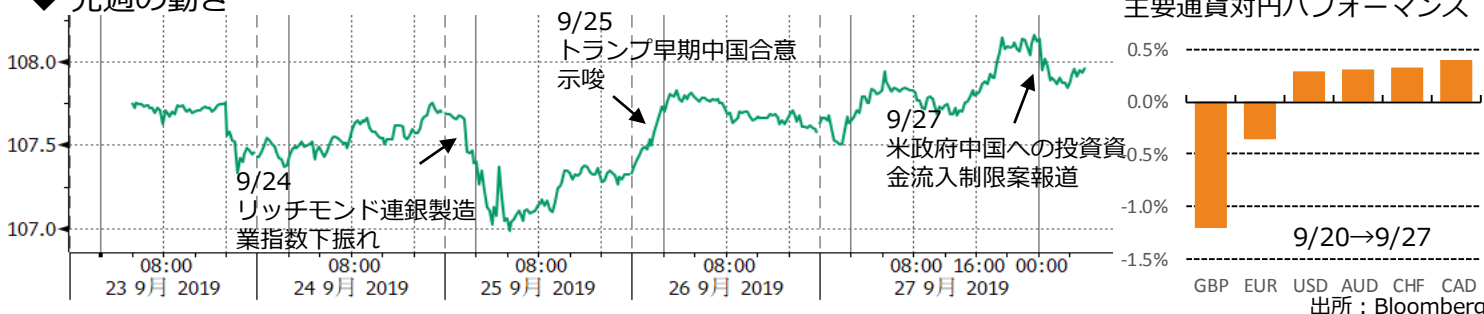
30日(月)日 9/18・19 日銀「主な意見」  
30日(月)日 8月鉱工業生産  
30日(月)中 9月PMI  
1日(火)日 9月調査:日銀短観  
1日(火)欧 9月CPI

1日(火)米 9月ISM製造業  
1日(火)中 習近平中国国家主席スピーチ  
3日(木)米 9月ISM非製造業  
4日(金)米 9月雇用統計  
4日(金)米 8月貿易収支

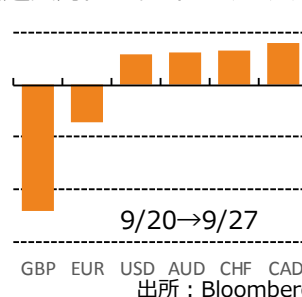
◆今週の予想 (ドル高 強い ↑ 普通 ↑ ドル安 強い ↓ 普通 ↓) NY引け値 27(金) 107.92円 VS 10月4日(金)

東京							大阪				埼玉					
尾股	中根	湊	井口	鳥井	田中	高尾	関口	藏重	佐藤	鈴木	武富	野瀬	小林	津田	石井	伊藤
↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	休	↓	↓	↓	↑	↑	↑	↑	↑	↓

### ◆先週の動き



### 主要通貨対円パフォーマンス



◎注意事項  
お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願いいたします。

2019/9/30

# りそな WEEKLY COLUMN

## さようなら1円玉？

- なかなか普及が進まない日本でのキャッシュレス決済
- 経済産業省の掲げる「キャッシュレス・ビジョン」では2025年までにキャッシュレス決済比率を40%に引き上げる目標
- お財布から1円玉がなくなる日も近いのか？

りそなホールディングス 市場企画部  
吉原 佑香里

### いよいよ10月から消費税は10%へ

いよいよ10月から消費税が10%になる。もともと2015年10月に実施される予定であったが、2回の延期の末、ようやく実施となった。さかのぼること消費税が導入されたのは今から約30年前の1989年4月1日、平成元年の出来事である。100円のが103円で売られることとなり、1円玉が大活躍、現にその年1円玉の発行量は大幅に増加した。今回はどうであろうか。

### 政府の推進するキャッシュレス・ビジョン

カギとなるのは経済産業省の政策である「キャッシュレス・ビジョン」。現在約20%程度とされている国内のキャッシュレス決済の割合を大阪万博の2025年までに40%に引き上げるという目標が掲げられている。キャッシュレス決済を推進する背景には、金融機関、事業者等の生産性向上に向けたコスト削減がある。現金決済には事業者側のレジ対応やATMの設置、現金輸送に係る費用など年間1兆円を超える社会的コストが発生しているのだ。また、現在開催中のラグビーワールドカップ、来年にはオリンピックを控え、今後も増加する外国人旅行者がキャッシュレス決済できる環境を整え、インバウンド需要を取り込む狙いもある。その他、お金の流れを捕捉しやすいためマネロン対策やビッグデータの収集に有効とも言われている。

### なかなか普及が進まないキャッシュレス決済

これらのメリットがあるにも関わらず、日本のキャッシュレス決済比率は約20%と、韓国90%超、中国65%、米国45%等の他国と比べても低い。なぜ日本でキャッシュレス決済が普及しないのであろうか？利用者と事業者の立場から考えたい。

まずは利用者の立場から。つい最近、町のクリニックにかかった際、会計時にカードが使用できず、現金を持ち合わせていなかったため、慌てて近くのコンビニのATMで現金をおろしたことがある。現金しか使えない場所はまだまだ相応にある。また先日の台風で停電した地域では、電子機器が使えないことからキャッシュレス決済が出来なくなるという事象が発生した。日本は災害大国であり「いざというときは現金」というお国柄も関係しているかもしれない。

次に事業者の立場から。なぜ事業者がキャッシュレス決済を躊躇するのか考えると、店側が支払う加盟店手数料の高さが大きい。例えば、クレジットカードでの決済では、



# りそな WEEKLY COLUMN

## 消費増税対策でキャッシュレス化を後押し

店側がクレジットカード会社に売上の数%を手数料として支払うこととなる。店側はその分売上が減ることを嫌い、現金での支払いを好むというわけだ。実際、近所のスーパーでは現金で支払いをするとカード決済より多くポイントが付与される日があり、その際は私もあえて現金で支払うことがある。

今回消費増税対策の目玉としてポイント還元策を同時に施行、国はキャッシュレス化に舵をきった。ポイント還元策とは、2019年10月から6月までの9か月間、ポイント還元策の対象となる店舗（中小企業の小売店や飲食店等）でキャッシュレス決済をすると、利用金額の2%あるいは5%がポイントとして還元されるというものである。使い方によっては増税を上回るメリットが出てくるのである。

また、中小企業の店舗がキャッシュレス決済に必要な端末を導入する場合、導入費用の3分の2は国が、残りは決済サービス提供会社が負担することで導入店舗の負担をなくし、さらに導入店舗が支払う加盟店手数料の3分の1を国が補助することとした。

ちなみに、当社も「りそなキャッシュレス・プラットフォーム」にて、複数の決済手段を1台で対応出来る決済端末を無償で提供している。ご興味ある方はぜひ。

政府としては、消費する側、提供する側の双方向にキャッシュレス化を推進しているのである。政府の対策が奏功し、キャッシュレス端末を導入する事業者が増えれば、それに伴い利用者が増えていくという好循環が働く。キャッシュレス決済を導入していない事業者は、利用者から選ばれずに淘汰されるという時代がくるかもしれない。今回の消費増税を機に日本でもキャッシュレス決済が浸透していくのではないだろうか。

## 財布から1円玉がなくなる日も近い？

冒頭の1円玉である。今後、キャッシュレス化が進んだ場合、お店からはレジが消え、銀行でいえば窓口での入出金やATMにお金を補充する仕事はなくなっていこう。そう遠くない将来、過去の消費税導入とともに活躍した1円玉はおろか、現金自体を皆の財布の中で見かけることは稀になるかもしれない。

